

平成二十二年度 第一回卒業式 校長式辞

梅の花も満開の春の良き日に、多数のご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、小林秀峰高等学校第一回の卒業式を、待ちに待った新体育館で挙行できますことを心から感謝申し上げます。

ただ今、栄えある卒業証書を手にした「秀峰一期生」百九十九名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。小林秀峰高等学校最初の卒業生として、様々な困難にうちかつて、進路目標を立派に達成し、有終の美を飾った皆さんの晴れの門出を心より祝福します。

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。新設高校における三年間、お子様と同様に、他校にはない様々なご苦労があり、今日を迎えられたことと思います。これまで、日々成長しつつある本校に、温かいご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

本校は、平成二十年四月十二日に開校式ならびに第一回入学式を挙行し、秀峰一期生が、宮崎県初の総合制専門高校の生徒としての第一歩を踏み出しました。それから三年間、秀峰一期生として過ごしたみなさんは、多くの貴重な経験をしてきたことと思います。

「智・誠・愛」の校訓の下、授業や学校行事、生徒会活動、部活動などを通して、新しい伝統としての「秀峰ブランド」の確立を目指す中で、基礎学力、専門的な知識・技能、協調性や忍耐力、礼儀作法、規律を守る態度などをしっかり身に付けてきたと思います。それらは、現在の企業などが求めている「人間力」であり、皆さんは、厳しい時代を生き抜き、素晴らしい未来を築き上げていく「生きる力」を身に付けてきたと言えます。

小林秀峰高校を築き上げてきたみなさんには、社会に出て、さらに大きく成長してほしいと願っています。「人は社会に出て十年で、学ぶべきことは学ぶ」とも言われます。スタートを大切にするとともに、最初の十年間を充実したものにする必要があるということです。そこで、私が日頃から大切に思っている「人と人とのつながり」に関する「一期一会」、「啐啄同時」、「切磋琢磨」の三つのことを心掛けてほしいと思います

「一期一会」というのは、茶道の心得の一つで、一生にただ一度のまたとない出会いを大切にすることです。新設校である小林秀峰高校に一期生として入学したみなさんには、素晴らしい友や先生方との出会いがあったと思います。そして、それにより、充実した高校生活も送れたのではないのでしょうか。

「啐啄同時」というのは、禅宗の中にある言葉です。「鶏の卵がかえる時は、殻の中で雛がつつくのと、母鶏が殻をかみ破るのが同時である」ことからきているもので、「師と弟子

の働きが合致する」という意味があります。高校生活において、みなさんが殻を破って、さらに成長したいというときに、適切な指導助言を多くの方々が与えてくださいました。感謝の気持ちも忘れないでください。

そして最後は、みなさんもよく知っている「切磋琢磨」です。中国最古の詩集五経の一つ詩経で孔子の編と呼ばれているものの中にある言葉です。仲間同士互いに励まし合って、自らを磨くという意味です。自らの夢を実現しようという志を同じくする仲間として、本校に集まったみなさんは、勉学に部活動に、様々な活動を通して、お互いに励まし合い、自らを磨き、成長してきたと確信します。

これら三つのことを、もっと端的に言えば、

- 一 出合いを大切にする
- 二 チャンスを生かす
- 三 自らを磨き続ける

ということになります。今後、社会人としての目標を持ち、それを実現しようとする中で、人生を左右する素晴らしい人との出合いが、必ずあるはずです。また、このときを生かすべきだという時が必ず来るはずです。そのときを逃さないために、秀峰を卒業した後も、常に自らを磨き続け、大きく成長し、目標を達成していったほしいと思います。

それでは、「秀峰一期生」であるみなさんが、小林秀峰高校の最初の卒業生としての「自信と誇り」を持って、社会で活躍することを祈念して、式辞とします。

平成二十三年年三月一日

小林秀峰高等学校 校長 中村正宏